

Moigbacterium timidumの増殖・定着に及ぼす
Porphyromonas gingivalisの影響(北海道医療大学
歯学会第26回学術大会 一般講演抄録)

著者名(日)	一宮川 博史, 藤田 真理, 鎌口 有秀, 中澤 太
雑誌名	北海道医療大学歯学雑誌
巻	27
号	1
ページ	65
発行年	2008-06
URL	http://id.nii.ac.jp/1145/00010098/

Mogibacterium timidum の増殖・定着に及ぼす *Porphyromonas gingivalis* の影響

○宮川博史, 藤田真理, 鎌口有秀, 中澤 太
北海道医療大学歯学部口腔生物学系微生物学分野

【目的】 難培養性の糖非分解性偏性嫌気性グラム陽性桿菌である *Mogibacterium timidum* は、歯周ポケット深部から多数分離されることから歯周疾患との関連が指摘されているが、その病原性や歯肉溝細菌叢における役割などについてはほとんど明らかになっていない。昨年度の発表で我々は *P. gingivalis* が *M. timidum* の増殖や凝集に関与していることを報告した。今回は、この *P. gingivalis* が産生する増殖促進物質の特徴と *M. timidum* の定着における *P. gingivalis* の影響について検討した。

【方法】 *P. gingivalis* を液体培地で4日間嫌気培養後の培養上清を遠心、ろ過した。その培地とアスパラギン酸やフェニルアラニンなどいくつかのアミノ酸類を様々な濃度で添加した培地で *M. timidum*

を培養し、その増殖活性を比較した。また、培養上清をスピンカラムや透析などの処理を行い増殖活性物質の分子量について検討した。さらに、*P. gingivalis* と *M. timidum* を共培養しそのバイオフィルム形成量について検討した。

【結果および考察】 *M. timidum* は *P. gingivalis* の培養上清を添加した培地で最もよく増殖し、用いたアミノ酸類ではほとんど増殖しなかった。この培養上清を様々な透析膜を用いてその分子量について検討した結果、低分子量の透析膜で透析してもその増殖活性がなくなることが示された。これらのことから、この増殖促進物質は低分子のポリペプチド、脂肪酸、多糖などであることが示唆された。

良性対称性脂肪腫における組織量のCT画像定量解析

○佐野友昭, 田中力延, 大西 隆, 細川洋一郎, 淀川慎太郎*, 柴田孝典*, 家子正裕**, 中山英二
北海道医療大学歯学部歯科放射線学分野
*北海道医療大学歯学部組織再建口腔外科学
**北海道医療大学歯学部内科学

【目的】 臨床的に良性対称性脂肪腫と診断した症例において、最初は萎縮を疑った組織がCT画像で定量的に組織量を計測することで萎縮性変化を否定できた症例を紹介し、CTにおける定量評価の有用性を提示すること。

【症例】 患者は77歳男性、ブリッジ脱落を主訴に来院した。顔貌所見において、前頸部甲状腺付近正中中部ならびに両側頸部に対称性に皮下の瀰漫性の腫脹を認めCT検査を施行した。

【CT所見】 耳介レベルから後頸部皮下にCT値-100を示す脂肪組織の増生を認めた。増生は、両顎下部から口腔底、傍咽頭間隙から鎖骨上窩から縦隔内ならびに胸骨体上部まで及んだ。この脂肪増生に伴い咽頭腔は著しく狭小化し、顎下腺ならびに胸鎖乳突筋は周囲の脂肪組織の影響による萎縮が疑われた。

【臨床診断】 臨床診断は、頸部の対称性の脂肪沈着があることと、脂肪組織塊は瀰漫性であることなどのCT画像の特徴が過去の報告とよく一致しており良性対称性脂肪腫 (Madelung disease) とした。

【検討項目】 CT画像の読影で、顎下腺と胸鎖乳突筋は脂肪組織の影響による萎縮を疑ったが患者が高齢者であることから加齢変化を考慮して顎下腺と胸鎖乳突筋のサイズについて平均年齢69.8歳の10例の画像と比較検討した。

【結果と考察】 両組織共に比較対照群との間に有意差は認めなかった ($p>0.05$)。画像的に萎縮と判断した両組織は、周囲の脂肪組織とのコントラストによる錯視による影響と考えられ、今後の診断の新たな知見となった。

本学歯科内科クリニック地域支援医療科活動報告 第7報

○松原国男¹⁾, 越野 寿^{1,3)}, 千葉逸朗^{1,2)}, 柳谷昌士¹⁾, 平井敏博^{1,3)}
¹⁾北海道医療大学歯科内科クリニック地域支援医療科
²⁾歯学部保健衛生学講座
³⁾歯学部咬合再建補綴学講座

本学歯学部附属病院は地域からの要望に応えるべく、平成12年11月に「地域支援医療科」を設置し、現在は、訪問歯科診療室所属の歯科医師2名と各科・部署からの担当者が診療等に当たっている。今回は、平成19年1月から12月までの「地域支援医療科」としての活動について報告する。

1. 訪問歯科診療の実績

訪問診療を実施した患者数は143名(平成18年同期間:116名)であり、延べ訪問診療回数は1335回(平成18年同期間:1182回)であった。訪問先については、高齢者・障がい者施設が678回(50.8%)で最も多く、居宅が354回(26.5%)、入院中の医科病院